平成３０年度放射線教育フォーラム通常総会及び第１回勉強会案内

日　時：　平成３０年６月１０日(日) １１：００～１７：３０

会　場：　東京慈恵会医科大学 高木２号館南講堂（東京都港区西新橋3-25-8）

通常総会　　１１：００～１１：５０

１．議長、記録係、議事録署名人の選出

２．総会成立条件確認

３．理事長挨拶、

議題：第１号議案　平成２９年度事業報告書及び活動計算書承認の件

　　　第２号議案　平成３０年度事業計画書及び予算書承認の件

　　　第３号議案　平成３０年度・年平成３１年度役員承認の件

報告：１．財務・運営等について

　　　２．事業の方向性について

第１回勉強会　　１３：００～１７：３０

主　催：　 ＮＰＯ法人放射線教育フォーラム

共　催：　 東京慈恵会医科大学 アイソトープ実験研究施設

資料代：　１０００円　　　　懇親会参加費：　１５００円

**プ ロ グ ラ ム**

13:00開会挨拶　　　　放射線教育フォーラム理事長　　　長谷川　圀彦

13:10講演１　　　放射線を通して現代科学に親しむ　～ 教育内容の新提案 ～

　　　　　　　　　　　　理論放射線研究所　　　　　　　　　　　　大野 新一

14:00講演２　　　高校「物理基礎」教科書の放射線の扱いから

　　　　　　　　　　～放射線教育フォーラム 教育課程検討委員会の活動から～

　　　　　　　　　　　　元筑波大学付属高等学校副校長　　　　　　廣井 禎

14:40講演３　　　教員養成課程における放射線教育の実践

　　　　　　　　　　　　東京学芸大学教授　　　　　　　　　　　　鎌田 正裕

（休憩20分）

15:50講演４　　　小学校での放射線学習の可能性を探る

～各教科等の学習内容と関連付ける教材化の工夫～

北海道大学エネルギー教育研究会　　　　　平田 文夫

16:40講演５　　　主権者教育としての原子力の是非

～双方の専門家をお招きしての授業の組み立て～

名古屋経済大学市邨高等学校　　　　　　　大津 浩一

17:30 閉会

　　 懇親会(18；00～19：30) 東京慈恵医科大学高木２号館南講堂前

講演要旨

講演１　放射線を通して現代科学に親しむ　～ 教育内容の新提案 ～

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大野 新一

　ギリシャで始まった「物質はどのようにつくられているか」の問いに対する１９世紀化学者の答は、堅くて壊れることのない１００種類ほどの原子の存在で終わるかに見えた。その一方で、摩擦電気の現象で気がかりとされた物質間を移動する“何か”については、真空中に取り出す方法により普遍的な電子の発見がなされた。２０世紀になると原子の内部構造、素粒子の性質に関心がもたれ、相対論と量子論が生まれ、２１世紀では宇宙の誕生と未来に人類の関心が移る。当フォーラムとして、放射線を通して現代科学に親しむ目標を提案したい。

講演２　　高校「物理基礎」教科書の放射線の扱いから

　　　　　　　　～放射線教育フォーラム 教育課程検討委員会の活動から～

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　廣井 禎

高校の科目に「物理基礎（2単位）」で放射線を扱う。しかし、その内容には中学校理科の繰り返しに見えるところもある。単なる繰り返しでなく、理解を深め、また、生活の場で活用できるようにするにはどうしたらよいかが課題になる。今回は、放射線の単位、放射線の導入（定義）、放射線の人体影響などの項目について、教科書の記述を教材の出発点として考察してきたことを報告する。

講演３　　　教員養成課程における放射線教育の実践

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　鎌田 正裕

北海道教育大学（H）、愛知教育大学（A）、東京学芸大学（T）、大阪教育大学（O）の４大学連携プロジェクトの一つとして、HATO放射線教育プロジェクトが平成24年度末に始まり、「科学的な視点に立脚して放射線教育を実践できる中学校教員の養成」を目指した取り組みが現在まで続いている。本講演では、プロジェクトの概要を説明するとともに、実際の取り組みの様子や、問題点、今後の展開等について報告する。

講演４　　　小学校での放射線学習の可能性を探る

～各教科等の学習内容と関連付ける教材化の工夫～　　　　　平田 文夫

　放射線飛び交う地球に暮らす私たちにとって、放射線や放射能の正しい知識は子どもの頃から必要であると考えています。しかし、小学校で教えるとなると様々な障害があり、実践例はあまりないように感じます。そこで、少しでも実践の輪が広がることを目指して、放射線学習の意味付けを明確にして、食の教育や健康教育、エネルギー教育等の学習内容に放射線の内容を組み入れた単元を開発しカリキュラム化して実践してきました。教科の枠にこだわらず、理科、家庭、体育、総合、学級活動に位置付けた学習内容を提案します。

講演５　　　主権者教育としての原子力の是非

～双方の専門家をお招きしての授業の組み立て～　　　　　　大津 浩一

出前講義の前後にする生徒へのアプローチの提案としての一連の授業の報告をする。最低限のサイエンスリテラシー、情報リテラシーを身につけさせ、論点を明らかにしてから出前講義を受講させ、出前講義後にはグループごとに合意形成をさせて、意見の発表をさせた。アンケートでひもとく生徒の心の動きは予想外であった。